

Dogo Saigo

玄関口のまちづくり 談義ニュース 2

発行：隠岐の島町建設課 2019年2月

隠岐の玄関口である西郷港周辺のまちづくりについて、誰でも参加できるオープンな場で行う談義の結果を「玄関口のまちづくり談義ニュース」として発信していきます。



まち歩きの様子

第3回「西郷港周辺まちづくり談義」を開催しました。

まちづくり談義を行っています

「愛の橋」談義

隠岐の島町では、隠岐の島町の玄関口、西郷港周辺の賑わいを取り戻すために「まちづくり談義」を平成30年8月に開始しました。第1回の「中町街歩き」(8月10日)、第2回の「西町と八尾川まち歩き」(10月15日)、は平日の夕刻から2時間かけて行いましたが、参加者からの「もっと議論の時間がほしい」という意見を受けて、第3回からは午後1時から5時までたっぷり時間を確保して談義を行っています。

第3回談義を開催しました

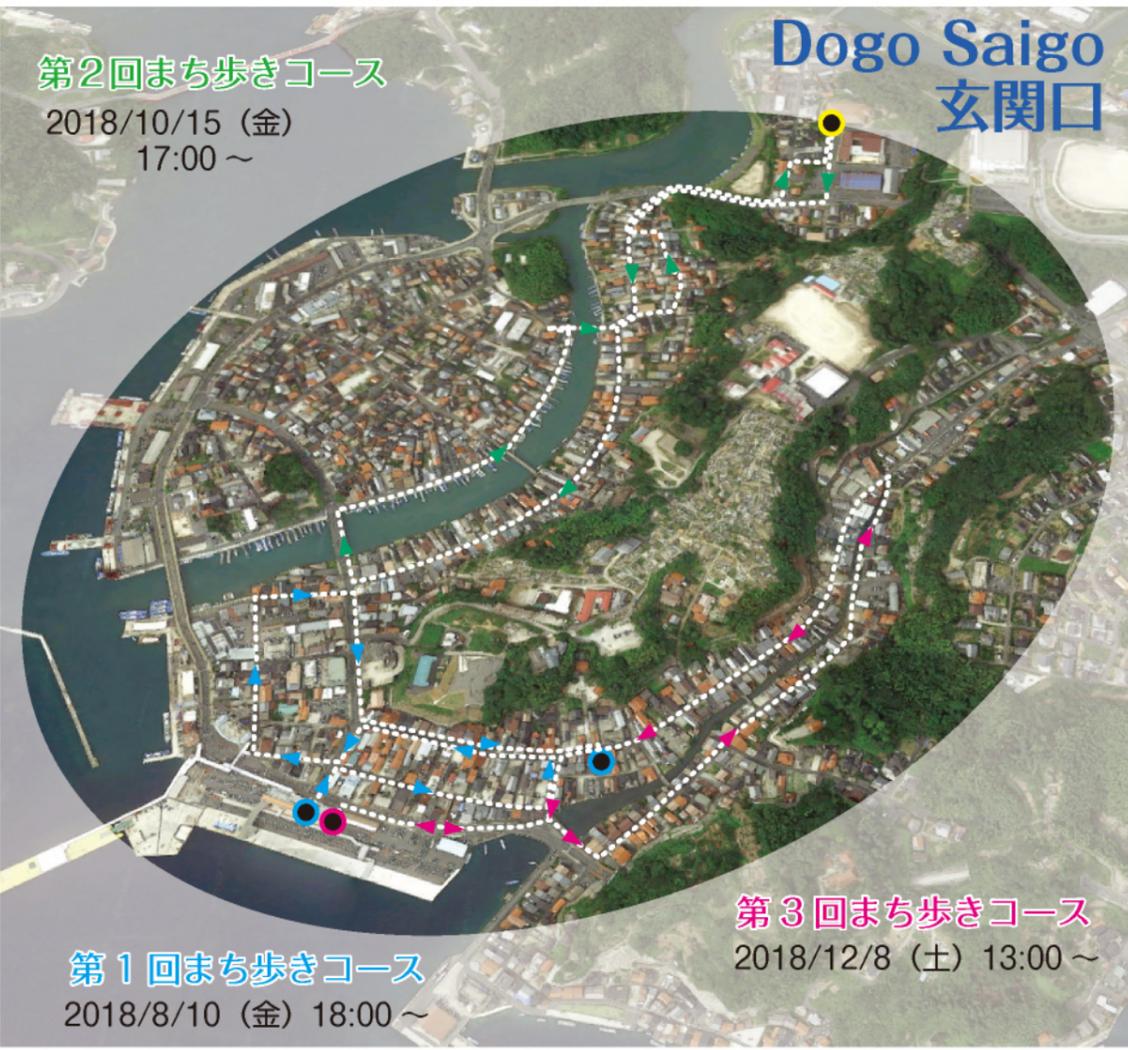
第3回談義は、12月8日土曜に、前半の第一部「東町・宇屋川まちあるき」と後半の第二部「愛の橋談義」に分け、参加者60名が4時間の熱心な談義を行いました。

東町と宇屋川沿いの街歩き

第一部の東町と宇屋川沿いのまち歩きは、雪がちらつく寒い日でしたが、参加者のみなさんは、熱心に宇屋川の河口や橋、東町の道路の状況などについて観察し、意見交換を行いました。とくに河口部付近の工事現場では、担当者から、新しくできるスペースの活用方法について談義を進めるなかで検討する可能性が示されました。

まち歩き後の話し合い

まち歩き後の話し合いでは、宇屋川の水質や透明度の問題、大雨のときの増水の懸念、上橋の木の風情や中橋の錆、狭く段差のある道路、神社の参道や井戸のある風情、建物の高さが揃う景観について意見を交換しました。



第2部の「愛の橋」談義では、橋を設計するときの条件や周辺の護岸について、デザインや活用方法について話し合いました。架け替えの計画が示されてから長い時間がたっていること、西町の愛の橋商店街の現状や港町からの災害避難通路の緊急性を踏まえ、できるだけ早く架け替える必要があること、そのためには、橋詰めの家屋移転等が発生しないようにすること、また、現状の4mの幅員を維持することが必要であることが確認されました。地域の人々の願いである車が通れる橋にすること、橋の上ですれ違いができるようにすること、歩行者が八尾川の景観を楽しむことのできるスペースをつくることの必要性が確認されました。

橋の高さについては、船を通すために高くしてほしいという意見に対して賛否両論がありました。役場としては、船の通行や橋詰め処理などの問題に対応する必要があるので、材質は海水の影響を受ける鋼鉄ではなくコンクリート製の橋を考えていることを説明しました。最後に、前回の計画時から時間がたっているの、それに見合った魅力ある橋にするということで、意見が一致しました。

玄関口のまちづくり談義 全体スケジュール

H30 第1回 8/10 (金) 18:00 ~ ターミナル周辺のまち歩き&談義	第2回 10/5 (金) 17:00 ~ 西町、港町の八尾川沿いまち歩き&談義	第3回 12/8 (土) 13:00 ~ ◆東町宇屋川沿いまち歩き&談義 ◆愛の橋談義	第4回 12/22 (土) 13:00 ~ ◆みち談義 ◆愛の橋談義Ⅱ(整備方針)	H31 第5回 2/23 (土) 13:00 ~ 文化会館 まちづくり構想図を描きます
--	---	--	--	---

※談義のテーマは地域で検討が必要なものを適宜追加しています。
 ※開催の曜日や時間についても参加者アンケートの結果で改良しながら進めています。
 ▶▶▶▶▶ 来年度は、まちづくり構想の具現化について談義します
 次号のニュースで年間スケジュールをお示しする予定です。

第4回談義を開催しました

第4回談義は、隠岐島文化会館を会場に、12月22日午後1時から午後5時までの4時間、65人の参加によって熱心な談義を行いました。

「みち談義」

前半は、西郷港フェリーターミナルを扇の要として、西郷地区の道路全体について西郷地区の道路の全体像について談義を行い、後半は、道路整備とも関連づけながら、第3回の談義を踏まえて、愛の橋について整備の方向を確認しました。

西郷港周辺では、国道・県道・町道を一体的にとらえ、住民や観光客が「歩きたい」と思うような道づくりの方向性が共有されました。八尾川右岸の景観の魅力について意見がある一方、「港周辺をウォーキングしているけれども、途中で憩えるスペースがない」といった指摘がありました。また港から天神社に至る国道や港湾沿いの

県道の名前、中町と西町を隔てる丘陵の名前についても意見交換を行いました。国道には「天神通り」という名前があるという意見がありました。必ずしも地域で共有されていないことがわかりました。また、丘陵には「監獄山」とか「大城台地」とかの呼称があるものの、必ずしも丘陵全体の呼び名がないということもわかりました。西郷小学校や地域の墓所もあるこの丘陵は、西郷港周辺地区の交流を難しくしている要因の一つですが、どの地区にとっても災害避難場所として重要なところ。丘陵を避難路として整備すること、西郷港の玄関口としての景観を整備すること、丘陵にたくさんある坂道に名前をつけることなどが西郷港周辺地区の一体感をつくりだすために重要な点として共有されました。

「橋談義」

後半の橋談義では、前半の道談義と第3回の談義を踏まえた役場の対応について意見交換を行い、愛の橋の整備方針について確認しました。

まず、役場から平成23年に行った4回のワークショップの経緯について報告しました。今回の談義が異なるのは、町民だれもが参加できる話し合いであること、役場と島根県関係職員も参加し、橋の機能やデザインについて、技術的な点、制度的、財政的な点、自然環境による制約などについての情報を共有しながら議論を進めていることです。ついで、活発な談義を行い、つぎのような点が「愛の橋」の整備の方針として確認されました。



第4回談義の様子

「愛の橋」の整備方針

1 歩者共存の橋

幅員は現在の橋と同じ4m、高さも現状のままとします。

幅員は対向車がすれ違いできるように、また歩行者が八尾川の景観を楽しむように中央部の構造を工夫します。高さについては現状のままとしますが、地盤や橋詰めの状況により最適な高さを工夫します。段差による歩車分離は行わず、人と車がお互いに安全に配慮するフラットな歩車共存の橋とします。

2 橋の素材

潮による腐食作用を避けるためにコンクリート橋とします。

3 橋のデザイン

橋の色やデザインは、談義のなかでみなさんと考えていきます。

西郷港周辺の道路全体の周遊ルートに位置づけることを試みながら、今後整備予定の西町の通りの色やデザインと関連づける方向で議論します。

4 災害時の避難

災害時には、防災計画・避難計画にもとづき、車は使わず歩いて避難するための重要な避難路となります。

実際に社会実験として避難訓練を実施することも考慮します。

5 スケジュール

2021年、2022年には下部工の整備、順調にいけば上部工を2023年度に行い、竣工は2023年から2024年を予定しています。

出水期である6月から10月は、川のなかの工事はできません。また、自然条件によって状況が異なってくることをご理解ください。

6 予算

予算は確保できています

7 仮橋

仮橋については、現在行っている測量の結果や橋詰めの処理など、いろいろな条件を考慮して可能性を検討します。

次回第5回まちづくり談義で検討結果をご報告します。

8 情報の共有

橋の整備の進捗状況について住民のみなさんとしっかり情報を共有します。